

連携テーマ

交流・連携の方向に基づき、これまでの検討を踏まえ、下記のような連携テーマを提案する。

中国圏の将来像

1. 地域の多様性を活かした交流・連携で、持続的に発展する中国圏

多様な地域が連携した一体感のある中国圏の形成
隣接ブロックを含めた交流・連携による活力・魅力の向上
東アジアをはじめ世界に開かれた交流・連携
中国圏の持続的発展を支える多様な人材の育成・確保

2. 産業集積や地域資源を活かした新たな挑戦で、持続的に成長する中国圏

国際競争力のある産業の振興
地域の活力につながるサービス産業の振興
地域資源を活かした地域経済の活性化

3. 多彩な文化と自然を活かして、多様で豊かな生活を楽しめる中国圏

中山間地域と都市地域の交流・連携等による生活サービス機能の確保
安全・安心な国土・地域づくりの推進
多様な主体が連携・協働した地域づくりの推進

四国圏の目標

安全・安心を基盤に、快適な暮らしを実感できる四国
～心穏やかに暮らせるやすらぎの実現～

災害に強い地域をつくる
自然・地球環境との調和を高める
地域の暮らしの快適性を高める

地域に根ざした産業が集積し、競争力を発揮する四国
～グローバル化を生き抜く産業群の形成～

絶え間ないイノベーションにより世界に通用する産業を育てる
多元的成長力を持つ産業集積を高める

歴史・文化、風土を活かした個性ある地域づくりを進め、人をひきつける四国
～おもてなしの心あふれた癒やしの実現～

美しい風土を形成し、地域の魅力を高める
歴史・文化的資源を継承し地域の独自性を発揮する

東アジアを始め、広域的に交流を深める四国
～進取の息吹を与える交流の創出～

東アジア・世界との交流を活性化する
環瀬戸内圏や全国との交流を活性化する
圏域内の交流を活性化する

中山間地域・半島部・島しょ部等や都市が補完しあい活力あふれる四国
～農山漁村と都市の共生～

農山漁村（中山間地域等）の暮らしと環境を支える
都市の魅力・快適性を高める

連携テーマ1

広域観光・インバウンド観光の推進

連携テーマ2

産業集積地間の連携による国際的な産業拠点形成

連携テーマ3

瀬戸内海の環境保全と修復

連携テーマ4

暮らしの安全・防災ネットワークの整備

連携テーマ5

広域交通ネットワークの連携促進

連携テーマ1

広域観光、インバウンド観光の推進

コンセプト

(背景)

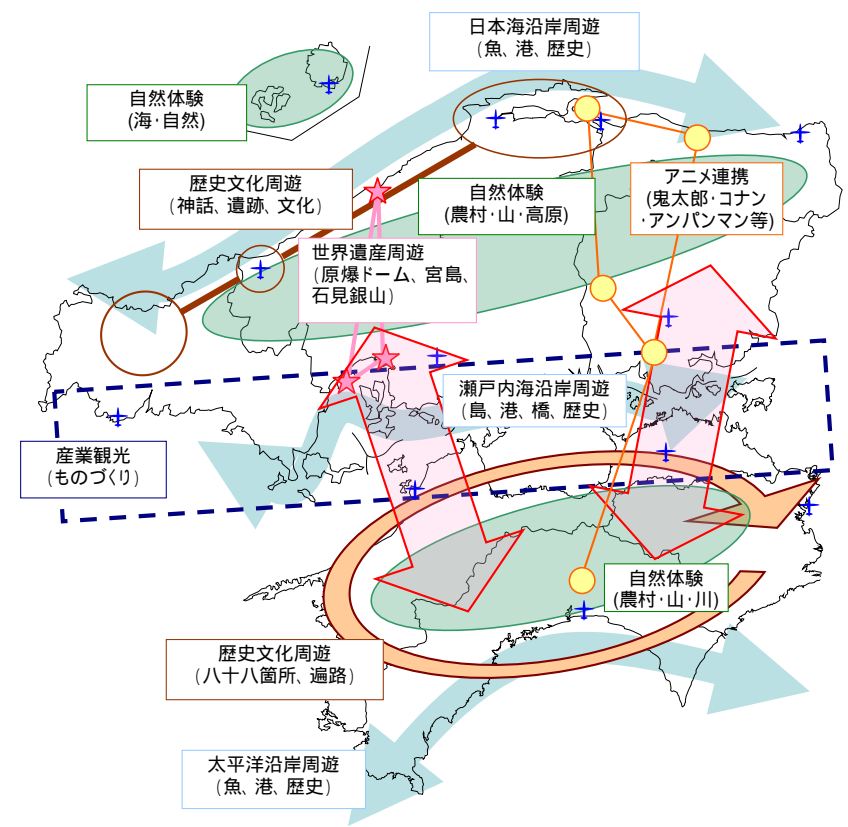
中国圏・四国圏ともに、古い歴史と多彩な自然に恵まれ、国内外に通用する観光地を有している。特に、両圏域が共有する瀬戸内海は多島美に恵まれ、明治以降欧米人にその景観を絶賛されるなど、国際的な周遊観光に適しており、既存のクルーズにおいても、瀬戸内海沿岸に寄港せず、通過するだけで「瀬戸内海クルーズ」という名称を付けているコースもあるほど、瀬戸内海はクルーズのブランドイメージを有している。

我が国のインバウンドの現状は、国際航空路線の多い首都圏～関西圏をつないだ「ゴールドルート」の観光地に集中しているが、今後は東アジアの経済成長によるインバウンドの拡大が予想されている中で、中国圏・四国圏においても、中国を主体とした国際定期路線を有する複数の空港・港湾を有している。また、中国圏と四国圏が連携して韓国・台湾へのプログラムチャーター便を運航しており、主として東アジアをターゲットとしたインバウンド観光振興の可能性が高い。

瀬戸内海の沿岸には、港町などの歴史的な町並みや水軍文化など両圏域に共通する資源があり、これらの資源を磨き、繋ぐことによって、特徴あるテーマを持った観光ルート形成のポテンシャルを有している。



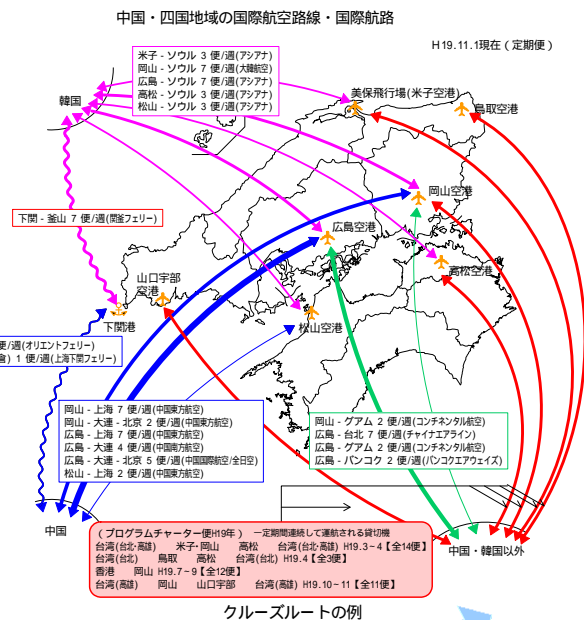
空港・港湾・高速道路を活用するとともに、本四架橋や航路等の中国圏・四国圏が共有する特徴ある交流基盤を活かして、両圏域の観光資源をつなぐ広域観光ルートの形成や国内外クルーズの誘致、インバウンド観光の振興を図る。



(連携事業イメージ インバウンド周遊ルート形成)

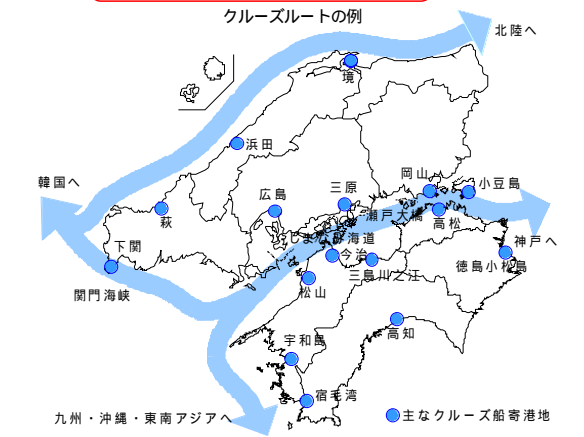
中国圏・四国圏を初めて訪れる人を対象とした主要観光地を結んだ観光ルートの設定や、料理や体験観光などテーマに特化したルートの設定を行い、東アジアなどのエージェントの招聘等のPRや、新たな定期航路の開業、異なる空港を繋ぐプログラムチャーター便の運航、高速バスなどがフリーで使えるバスの導入等を推進する。更に、中国圏・四国圏が一体となって海外の地方政府などと観光に関する交流協定を締結する取り組みを進め、観光客や教育旅行の誘致を行う。

- < 主要施策・事業(例) >
- ・東中四国国際観光テーマ地区(鳥取県・島根県・岡山県・香川県・高知県)、瀬戸内国際観光テーマ地区(広島県・山口県・愛媛県)
 - ・台湾への共同チャーター便運航(鳥取県・香川県・岡山県・山口県・香川県)
 - ・各国別インバウンド商品化事業
 - ・東アジア地域観光交流促進事業
 - ・東アジア地域等外国人観光客誘致対策事業
 - ・ウェルカムサポート事業



(連携事業イメージ 国内・国外クルーズ誘致)

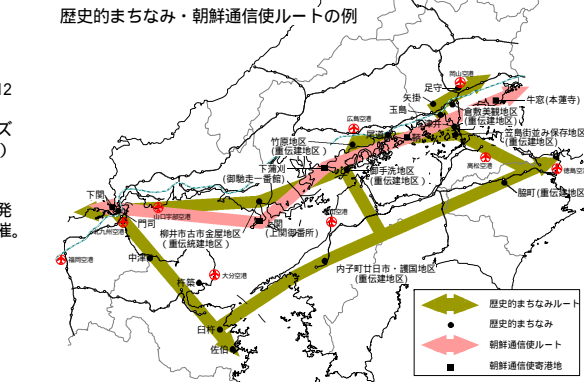
瀬戸内海地域をはじめ中国圏・四国圏の各地で港の整備も進み、クルーズの受け入れ体制も良くなってきており、両圏域が連携して海外・国内クルーズを誘致するためのPR活動や寄港地周辺の観光ルート形成などを行う。



(連携事業イメージ テーマルート形成)

中国圏・四国圏の共有の財産である瀬戸内海の歴史的な資源を活用して、朝鮮通信使ルートや歴史的町並みルート、美術館ルート、水軍・海軍ルート、平家ルートなどテーマを持った観光ルートを形成する。地域資源に磨きをかけ、ボランティアガイドやこだわりの食の提供等によるスローツーリズムを創出する。

- < 主要施策・事業(例) >
- ・ニューツーリズム創出・流通促進事業
 - ・瀬戸内海スローツーリズムの取り組み(ニュースレター発行、交流会開催)



連携テーマ2 産業集積地間の連携による国際的な産業拠点形成

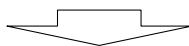
コンセプト

(背景)

中国圏及び四国圏は海上輸送に恵まれた地理的特性等を活かして、ともに瀬戸内海工業地域を形成し経済発展を遂げてきた。このため、石油化学等の基礎素材型産業や造船等の構成比が高いという産業構造上の共通点を有するとともに、国内他産業に向けた中間財移出入への依存度が高いといった需要面での共通点もある。一方で、それぞれ圏域内部での経済循環が十分でないという課題も有する。そこで、両圏域のそれぞれで内部循環を高めるという方針に取り組むとともに、地理的近接性や産業集積の特性・関連性を活かして、一方の経済における生産増加が他方の生産をこれまでに増して誘発するような、産業連関の深化を通じた共存共栄の関係強化を図る。

このためには、圏域間で取引される製造品が確かな技術優位性・コスト優位性を持つことが必要である。これは、中国圏・四国圏の産業集積地間で共有化できる産業戦略を持ち、新製品・新技術の開発に向けた取り組みの中で、密接な連携関係を構築していくことが確実性の高い戦略と考えられる。

瀬戸内海沿岸における基礎素材型産業の立地を活かし、産業廃棄物の再資源化といった環境・循環分野に取り組むことは、中国圏・四国圏双方にとって瀬戸内海という地域特性を活かした共通の産業振興方向と考えられる。瀬戸内海という世界的にも魅力的な自然環境を有する両圏域にとって、こうした環境・循環型の先端産業に取り組むことは両圏域のグローバルな情報発信力を高めるものと期待される。



産業集積地間において新事業・新産業創出を目指した産業連携に取り組む、その経済的成果が産業連関を通じて相互に波及する共存共栄の関係強化を図る。また、瀬戸内海沿岸に立地するコンビナート地区をネットワーク化して、環境・循環分野における先進的な産業活動を活発化するとともに、同分野で先進性の高い産業が立地する地域としてグローバルな情報発信力・求心力を有する圏域形成を図る。

中国圏の主な産業集積

化学、石油製品（岡山県南、岩国、周南、宇部・小野田）
鉄鋼（中海臨海、岡山県南、備後、広島湾）
輸送用機械（岡山県南、備後、賀茂、広島湾、山口・防府）
電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイス（鳥取、出雲、井笠、備後、賀茂）
パルプ・紙（岩国）

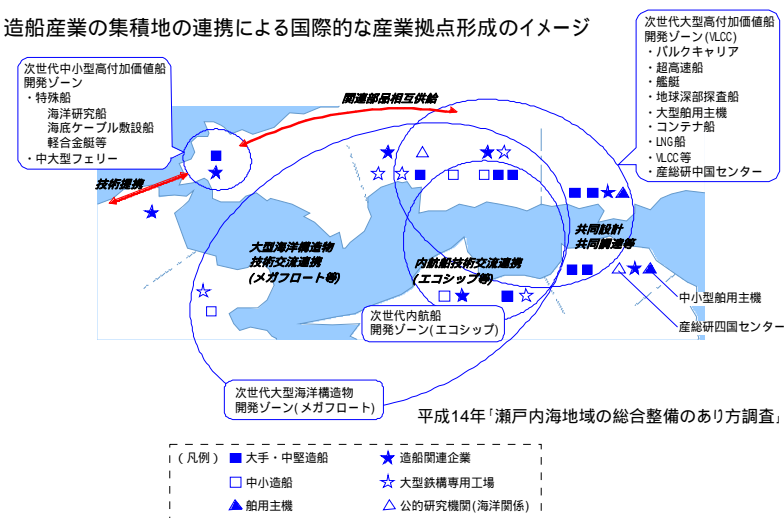


四国圏の主な産業集積

医薬品製造業（徳島、坂出・丸亀）
建設用金属製品（高松、新居浜・西条）
電子部品・デバイス（徳島・徳島南部、高松、高知中央）
船舶（坂出・丸亀、新居浜・西条、今治）
紙製造業（四国中央、徳島南部、観音寺、高知中央）

(連携事業イメージ) 新事業・新産業創出を目指した産業集積地間の連携

造船産業の集積地の連携による国際的な産業拠点形成のイメージ



(新事業・新産業創造の取組事例)

中国圏・四国圏を全体的に見ると、自動車・船舶・航空機といった陸海空における輸送用機械製造業が集積している。また、これらの輸送用機械に高度部材を供給する化学（炭素繊維、樹脂材料等）、鉄鋼（高張力鋼板等）等の基礎素材型産業の集積もある。そこで、輸送用機械における水平方向の連携（産業間における技術・知見の共有化、部品供給や高度加工を担う協力企業レベルでの開発連携等）による研究開発、また素材産業との垂直方向の連携による研究開発（軽量化素材等の開発）を活発化し、次世代輸送用機械の創出を目指した国際的な産業拠点の形成が考えられる。

(連携事業イメージ) 瀬戸内静脈物流の推進

沿岸の素材産業の集積を活かして、各地域のリサイクル拠点としての強みを連携させることにより、産業振興とゼロエミッションの推進を図るため、静脈物流ネットワークの形成を図る。このため、平成16年度から岡山・広島・山口・香川・愛媛県の環境部局・港湾部局等の支援・協力、経済産業省・国土交通省の補助事業の採択を受けながら計画を進め、平成19年度に事業実施に向けた排出業者等の荷主の募集を開始している静脈物流事業を推進する。

<主要施策・事業(例)>
・瀬戸内静脈物流事業化推進協議会の取り組み



(資料) 瀬戸内静脈物流事業パンフレット(瀬戸内静脈物流事業化推進協議会)

連携テーマ3 瀬戸内海の環境保全と修復

コンセプト

(背景)

瀬戸内海においては戦後、干拓・埋め立てにより干潟の20%が消失し、アマモ場も昭和60年以降7割が消失したことなどにより、漁獲量も70年代半ばから減少している。瀬戸内海環境保全特別措置法などに基づく環境規制により、水質は長期的には改善傾向にあるが、海底には0.5～1mのヘドロがたまったままであり、海中での汚染物質の再生産により、近年では水質改善が停滞している。こうしたなかで、環境保全、水産資源保護、環境修復に係わる多くの公設試・大学の研究所・NPOが、様々な活動を展開しているほか、瀬戸内海の全域を対象として、今後20年間に約600haの浅場の修復を図る環境修復計画が策定されている(H15年度/国土交通省中国地方整備局・水産庁)。

瀬戸内海では水質改善と併せて、大量の漂流ゴミ・漂着ゴミ・海底ゴミ対策が課題となっている。概算で、漂着ゴミは1,200～16,000トン、漂流ゴミは100,000m³、海底ゴミは13,000トン程度と推計されている(中国四国地方環境事務所推計、H19.2)。こうした中で、瀬戸内海沿岸の107の市町村と11府県等が集まり、毎年沿岸の美化活動などを行う「瀬戸内海の路ネットワーク推進協議会」による活動が展開されている。また、国・県・市町村・関連団体などにより、瀬戸内海の水質問題を共同で解決するための「瀬戸内海海ごみ対策検討会」も発足している(H18)。

中国圏・四国圏が共有する瀬戸内海を、豊かな生活や交流の基盤として活用するため、瀬戸内海の環境浄化と修復のための多様な活動を広域で推進し、環境の質を高める。

ゴミひろい活動

浜辺の観察教室

環境のモニタリング

生物多様性の確保

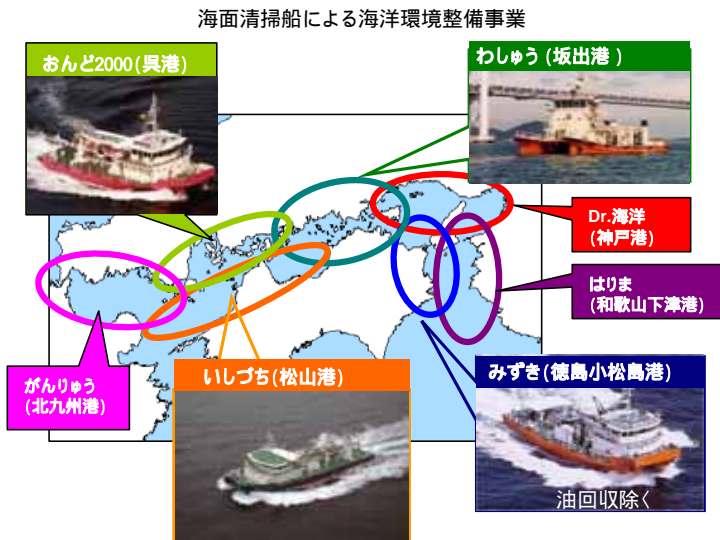
植樹等の緑化活動

干潟・藻場の保全・再生

(資料) 広島県海岸・干潟生物調査マニュアル(平成18年3月、広島県) などより抜粋

(連携事業イメージ 瀬戸内海のクリーンアップ)

海面清掃船による漂流ゴミ回収については海域毎に取り組まれているが、この広域的取り組みの継続を図るとともに、「リフレッシュ瀬戸内」による住民参加による清掃活動の広域的な取り組みを継続・拡大する。また、漁業活動に伴い海底ゴミが回収される場合があるが、この処理方法が確立されていないことから、行政・住民・業者の連携により海底ゴミの回収・処理等システムの確立を図り、海の浄化を進める。また、海底ゴミの多くは河川から流入していることから、沿岸自治体だけでなく広域的な行政の連携を進める。



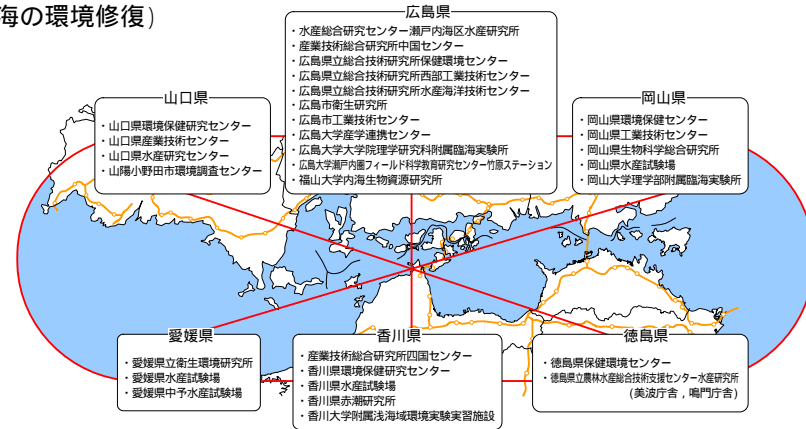
- < 主要施策・事業(例) >
- 瀬戸内海の路ネットワーク
 - 瀬戸内海海ごみ対策検討会
 - 海面清掃船による漂流ゴミ回収

瀬戸内海沿岸の美化活動

瀬戸内海の路ネットワーク推進協議会が毎年、6、7月に行っている海浜清掃活動。延べ140万人が参加。

(連携事業イメージ 瀬戸内海の環境修復)

藻場・干潟の再生、底質改善、海浜創出、赤潮対策など、瀬戸内海沿岸各地で行われている様々な環境修復事業の手法や成果について、情報交流や研究開発を進めることで、広域的で効果的な事業推進を図る。また、瀬戸内海の環境や修復に係わる公設試・大学・NPOによる情報共有・共同研究を進めることにより、環境修復の世界的な研究拠点(COE)の形成を図る。



- < 主要施策・事業(例) >
- 瀬戸内海環境修復計画



連携テーマ4 暮らしの安全・防災ネットワークの整備

コンセプト

(背景)

瀬戸内海の離島等では住民の高齢化が進展する中で、医療機関へのアクセスが不便な状況にあるが、住民の医療・保健を確保するために、岡山・広島・香川・愛媛4県の瀬戸内海および豊後水道に浮かぶ66の島々を定期的に巡回している診療船により(昭和37年に病院並みの診療機能を持つ診療船「済生丸」が誕生)、離島住民に対する医療サービスの確保が図られている。

中国圏・四国圏は、台風や豪雨などによる水害被害を受けやすい地域であり、今後は南海・東南海地震などの大震災の発生も予測されることから、連携して災害対策を行う必要がある。阪神淡路大震災の折には、陸上交通網が遮断されたため、救助隊や救援物資の輸送が困難になり、港を活用した海上輸送でカバーされたという経験がある。



大規模な地震や津波などの広域災害が発生した時に、海上交通を活用した災害時の応援・救援体制の連携を図るとともに、防災情報システムのネットワーク化などの情報共有、防災意識の醸成など防災教育、防災対応のノウハウを備えた専門的な人材育成等を連携して行う。

中国四国圏の安全・防災ネットワーク

広域防災拠点ネットワーク

- ・災害復旧活動支援
- ・防災ヘリの連携運用
- ・救援物資の輸送 など

防災情報の共有

- ・防災情報システムのネットワーク化
- ・災害時の情報共有システムの確立 など

人材育成・防災教育

- ・防災に関する専門的知識を備えた人材
- ・防災意識の醸成 など

災害時代替交通確保

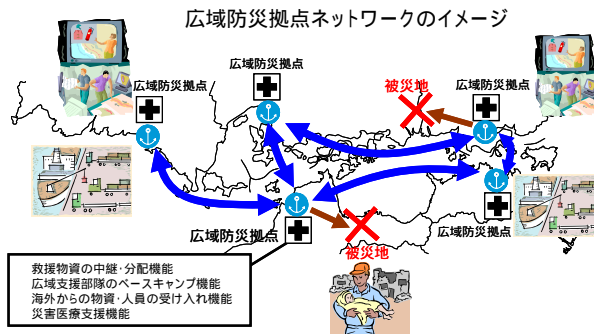
- ・港湾機能(代替港など)の確保や広域的な代替交通(迂回路など)の確保のための関係者の連携体制整備 など

離島での保健・医療の確保

- ・診療船の運航
- ・ドクターヘリ等の三次救急医療体制の連携 など

(連携事業イメージ 広域防災拠点のネットワーク化)

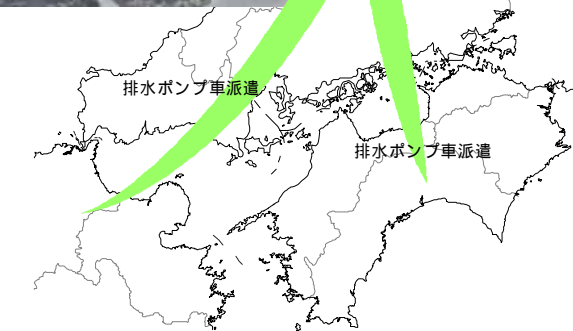
災害時には陸路が遮断もしくは大渋滞となる可能性が高いことから、港を活用して大量の救援物資や復旧活動支援部隊を輸送する広域防災拠点ネットワークを構築する。このため、災害時には、港湾緑地等のオープンスペースを活かして、救援物資の中継・分配機能、広域支援部隊のベースキャンプ機能、海外からの物資・人員の受け入れ機能、災害医療支援機能などを備える港湾防災拠点を整備し、海上輸送を活かして支援を行う。



<主要施策・事業(例)>

- ・防災活動の相互協力
- ・中国5県災害時の相互応援に関する協定(鳥取、島根、岡山、広島、山口)平成7年7月13日
- ・四国4県広域応援に関する協定(香川、徳島、愛媛、高知)平成7年10月20日
- ・中国・四国地方の災害時相互応援に関する協定(鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知)平成7年12月5日

(事例)平成18年7月豪雨(島根県東部)による広域的な応急対策



(連携事業イメージ 島嶼部医療ネットワーク)

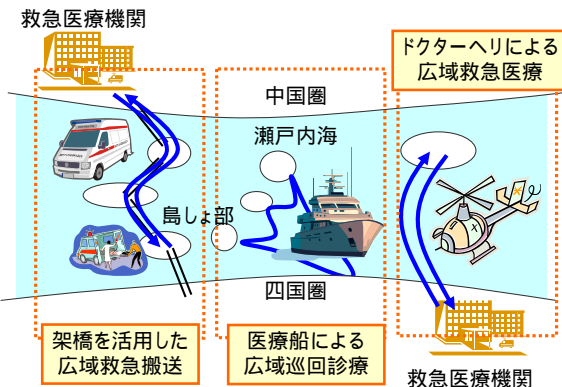
瀬戸内海の離島住民の医療・保健を確保するため、診療船の活動に加え、妊婦などを対象とした広域救急搬送システムに基づき、ドクターヘリなども活用して救急体制の連携を図るなどにより、島しょ部医療の充実を図る。

<主要施策・事業(例)>

- ・済生丸の運航
- ・各県の保健医療計画(三次救急医療体制)



瀬戸内海で離島住民の巡回診療に活躍する「済生丸」世号



(資料)社会福祉法人済生会ホームページより抜粋

連携テーマ5 広域交通ネットワークの連携促進

コンセプト

(背景)

中国圏・四国圏を繋ぐ高速道路ネットワークの整備・活用を図ることにより、物流環境の改善、産業の新たな展開や観光交流の拡大などを通じて、日本海側と太平洋側の地域振興を促進することが課題となっている。

中国圏・四国圏は海で隔てられているが、多数の航路で繋がれ、観光・産業・生活面での多様な交流が行われている。さらに、本四架橋が整備されたことにより、以前より交流の規模が拡大しているが、一層の利用拡大が求められている。

瀬戸内海沿岸には、近代以降工業開発がおこなわれ、工業地帯と一体となった多くの港湾があり、これが中国圏・四国圏のものづくりの強みの基盤となっている。近年では東アジアの成長に伴い貿易量が急増しているが、今後は両圏域の国際競争力を高める上で、港湾物流の大型化に対応した物流環境の整備が課題となっている。

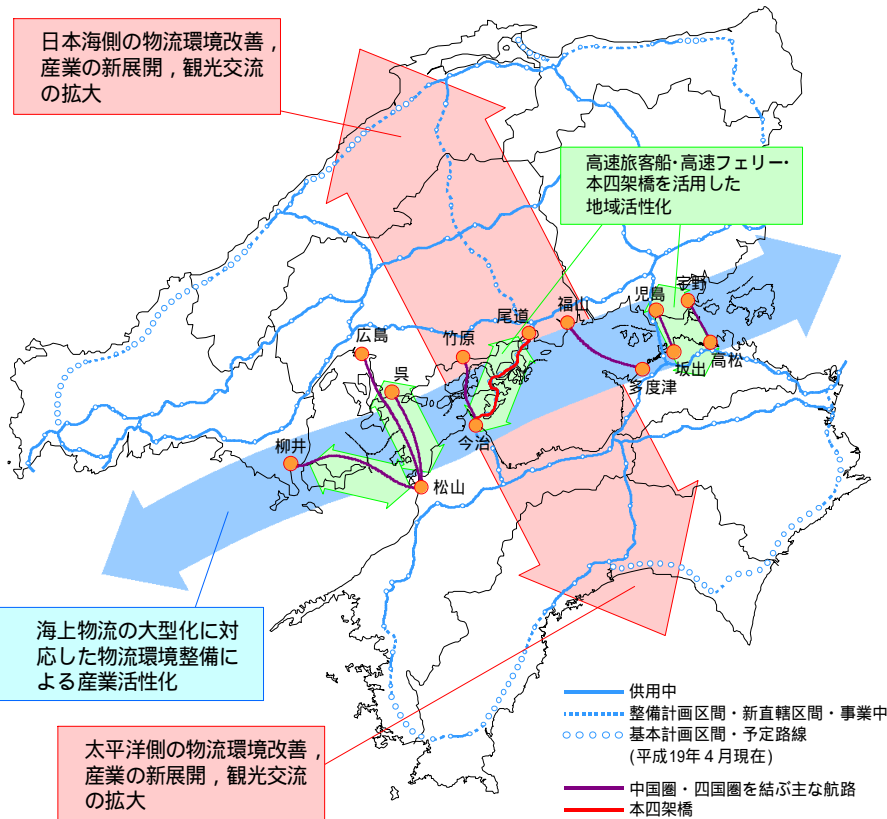
高速道路網の整備・活用とそれにつながる瀬戸内海航路の活用を図ることにより、観光交流の拡大・物流環境の向上・産業の新展開などによる両圏域の振興を図るため、広域的な集客事業の開催等を進めるとともに、大型海上物流に対応した物流環境整備を進める。

日本海側の物流環境改善、産業の新展開、観光交流の拡大

高速旅客船・高速フェリー
本四架橋を活用した
地域活性化

海上物流の大型化に対応した物流環境整備による産業活性化

太平洋側の物流環境改善、産業の新展開、観光交流の拡大



(連携事業イメージ) 本四架橋を活用した地域活性化

本四架橋を活用した地域振興を図るため、瀬戸内しまなみ海道振興協議会の取り組みのような中国・四国をまたがる組織による広域的な集客事業の実施を行うとともに、既存高速ネットワークの効率的活用・機能強化に向けて高速道路における多様で弾力的な料金施策等の検討を進める。

(参考資料)瀬戸内しまなみ海道振興協議会の概要

構成

2市1町(尾道市・今治市・上島町)および関係25団体

主な事業内容

- 周辺市町の広域的課題に対する連絡調整及び事業の推進に関すること
- 瀬戸内しまなみ海道周辺地域の活性化のための調査、研究及び施策の推進に関すること
- 広域共同プロジェクトの推進に関すること
- 瀬戸内しまなみ大学に関すること
- しまなみ海道レンタサイクルに関すること
- その他目的達成に必要な事項に関すること

(資料)瀬戸内しまなみ海道振興協議会ホームページより抜粋



スリーデーマーチ

(参考資料)瀬戸大橋開通二十周年記念事業

岡山県・香川県が連携して、平成20年4月の二十周年を記念し、橋上をコースとしたマラソン・ジョギング大会や瀬戸大橋利用者に対する観光施設割引事業等を計画している。

< 主要施策・事業(例) >

- 瀬戸内しまなみ海道振興協議会によるスリーデーマーチの取り組みなど
- 瀬戸内海スプリングイベント・オータムイベントの実施
- 瀬戸大橋開通二十周年事業

(連携事業イメージ) 海上物流の大型化に対応した幹線航路の整備による産業活性化

グローバル経済の拡大が進展する中で、瀬戸内海における海上物流の大型化が進展していることから、バルクターミナルの整備など港湾整備が進められつつあるが、幹線航路の幅員が狭いことや水深が浅いことなどにより、海難事故の発生や大型船の通行時における待機船の発生などがみられることから、両圏域の連携により航路の拡幅や大水深化を行い、物流環境の整備を図る。

深刻なボトルネックにより、瀬戸内海航路の船舶航行の安全性・効率性は低い

航路の整備(増深・拡幅)により大型船舶を含めたすべての船舶が安全で効率的な運航が可能となり、産業活性化に寄与

